

家事労働に関する考察（第1報）

A Study of Household Activities (1)

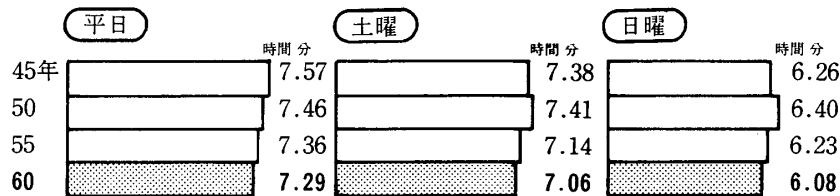
大町 淑子

Yoshiko OOMACHI

I. はじめに — 研究のねらい —

人類が約 200 万年前に地球に存在するようになり、やがて小集団で家族を形成して家庭生活を営むとともに、生活を維持する仕事として家事労働が発生してきたと思われる。現代の家庭生活における家事労働は種々の面で変化しているが、家族の生活を支えるという本来の目的は変わっていない。

小・中・高等学校の家庭科教育では、家族、家庭生活に関連して、発達段階に応じて家事労働が取り上げられている。家政学の家庭経営学の分野に「家庭管理学」があり、ここでは家事労働が研究対象の 1 つになっている。戦後、家事労働の機械化・電化が進み、また最近では社会化も進行したこと等により、家事労働は、消費エネルギーからも労働時間からの減少の傾向にある。図表 1 は NHK 国民生活時間調査から、主婦の「家事」時間の変化を示したものである。



図表 1 NHK 世論調査部, 「図説日本人の生活時間 1985」, 日本放送出版協会, より

家事労働はどの部分が変わったのか、変化していないのはどこか、その理由は、そして変化は家族、家庭生活にとって何を齎しているか、殊にこれまで家事労働の大部分を担ってきた女性にとってどのような影響があるか、またそれらの変化は人々の意識にどのように受け取られているか、等々多くのことを家事労働について検討する必要がある。

この研究はこうした家事労働に関わる動向を知ることがねらいの 1 つであり、またそれを、大学における家庭科教育、家庭管理学の充実の資料とすることがもう 1 つの目的である。

II. 研究方法

1. 家事労働に関する研究の概略

家事労働は家庭生活に伴う私的労働であり、個人的消費過程の労働という性格から、経済社

会の労働一般に比べて研究が進んでいるとはいえないが、家政学を中心にみると、概ね次のような方向で進められてきた。

- ・動作，エネルギー代謝，疲労等の労働科学的研究¹⁾
- ・家事的技能を中心にする研究²⁾
- ・家事労働に自然科学的研究を取り入れる方向³⁾
- ・農村の生活改善の研究⁴⁾
- ・生活時間に関する研究⁵⁾
- ・夫婦，家族間の役割分担に関連して⁶⁾
- ・家事管理能力に関する研究⁷⁾

家政学以外では，経済学，社会学で行われている他に，思想の流れや国際的な動向から婦人の問題として研究されている。

2. 研究の具体的方法

今回の研究方法は，現在行っている家庭管理学の授業において「家事労働に関して連想すること」をカードに書き出し，それをグループで整理したものを基にして分析した。このカード作成と整理の方法は，家事労働を授業で取り上げる前に，先入観をもたせないで，学生の経験と高校までの学習で思い浮ぶ事柄を書かせる。授業は次の順序で行っている。

- 1) 前述のように「家事労働に関して連想すること」を，1人ずつ単語か小文節でカード1枚に1つ記入する。
- 2) 学生のグループは4～6人で編成。親しい仲間だけにならないように名簿順などでつくる。
- 3) 各人が書き出したカードを集め，整理する。同一のものや似ている内容をまとめ，幾つかに整理する。整理したカード間の関連を考えながら，家事労働の状況が分かるようにグルーピングする。
- 4) 模造紙(全紙サイズ)1枚にグルーピングしたカードをはりつける。家事労働の状況が表現できる配列とし，関係を実線，破線など結び，グルーピングの名称やテーマなどの必要な事項をかこむ。

現行の授業では，これを資料にし，さらに参考文献，他の資料にあたらせて，その時に応じたテーマを出しレポートを作成させる。最後に，全体のまとめを授業で行っている。

第1報では，カードに記載された内容を分析し，学生の家事労働についての連想をみる。範囲は，昭和59年度から63年度までの5年間とする。

III. 研究方法

1. 家事労働の分類

家事労働の内容といえば，衣・食・住とするのが一般的である。また家庭科教育では，小学校は被服，食物，家族の生活と住居の3領域，中学校の技術・家庭科は家庭科に関する領域が，被服，食物，住居，保育で，平成元年3月に告示された新学習指導要領では，これらに家庭生活が領域として加えられている。家庭科の領域をそのまま家事労働にあてはめることはできないが，家事労働は家庭生活を維持する労働であるから，衣食住という行為を軸とした考え方にこだわらずにみる意味では参考になる。さらに高校の家庭科の科目「家庭一般」では，家族と家庭生活，家庭経済と消費，衣生活の設計と被服製作，食生活の設計と調理，住生活の設計と住

居の管理，乳幼児の保育と親の役割，ホームプロジェクトの実践と学校家庭クラブになっている。

日本家庭科教育学会関東地区会で課題研究として共同研究⁸⁾を行ったが，ここでは小・中・高等学校の家庭科を通して，家族・家庭生活，食生活，衣生活，住居の4領域をたてた。

分類の枠組のたて方は，研究の考え方を示すものであり，研究の目的にそってつくられるものと考えられる。従来の衣食住という行為，即ち仕事を中心にする家事労働が多いのは事実であるが，今日の家事技能だけではない家事労働，家庭内作業だけに留まらない社会との関連の強い家事労働では，設計や意思決定が重視されなくてはならない。そこで，今回の家事労働の分類は次の6つとした。

- 1) 家族・保育・看護
- 2) 家庭経営
- 3) 食生活
- 4) 衣生活
- 5) 住生活
- 6) 家事労働の意義・イメージ

6) の家事労働の意義・イメージは，他のものと性格を異にするが，カード作成の際に「家事労働に関して連想すること」が与えられているので，特にイメージとして画かれたものをいれることにした。この6つを，ここでは領域と呼ぶことにする。

2. カードの記入の分類上の問題点

カードの分類を行ってみると，種類の問題が生じてくる。

- ・小文節で長いものは短縮の必要がある。
- ・同じ単語や小文節が，6領域のあちこちに出てくる。例えば主婦，エプロン，台所などである。授業中にグループごとにカードのグルーピングをしているので，その枠通りに分類すると，複数の領域にわたる。個人による受け取り方の違いであるから，できるだけそのグルーピングを尊重した。

図表2 領域別の記入数

年度	領域(枚)	家族・保育・看護	家庭経営	食生活	衣生活	住生活	意識・イメージ	計	1人当りの記入数
	人数								
昭和63年度	29人	142 (5)	169 (4)	279 (2)	193 (3)	407 (1)	140 (6)	1,330	45.8 〔1〕
昭和62年度	13人	63 (4)	82 (2)	40 (5)	75 (3)	129 (1)	0 (6)	389	29.9 〔2〕
昭和61年度	33人	75 (4)	85 (3)	70 (5)	93 (2)	145 (1)	10 (6)	478	18.5 〔4〕
昭和60年度	25人	47 (5)	57 (4)	41 (6)	58 (3)	61 (2)	88 (1)	352	14.1 〔5〕
昭和59年度	21人	47	67	47	71	128	32	382	18.7 〔3〕
計	121人	374 (5)	460 (4)	477 (3)	490 (2)	870 (1)	270 (6)	2,947枚	24.3
領域の比率		12.7	15.6	16.2	16.7	29.6	9.2	100%	

() は領域間の順位，〔 〕 は記入数の順位

図表3 記入数の順位による分布

領域 順位	家・保 ・ 看	家経	食	衣	住	意・イ	領域 順位	家・保 ・ 看	家経	食	衣	住	意・イ
1	93	97	53	112	101	11	41	2	2	2	1	5	2
2	21	50	47	70	44	8	42	2	2	2	1	5	2
3	20	29	34	51	40	6	43	1	2	2	1	4	2
4	20	22	32	30	33	6	44	1	2	2	1	4	2
5	19	10	28	25	30	6	45	1	2	2	1	4	2
6	19	9	21	23	27	5	46	1	2	2	1	4	2
7	15	8	16	20	23	5	47	1	2	2	1	4	2
8	13	8	13	13	22	5	48	1	2	2	1	3	1
9	7	8	12	13	22	4	49	1	2	2	1	3	1
10	6	8	11	11	21	4	50	1	2	1	1	3	1
11	6	7	11	11	19	4	51	1	2	1	1	3	1
12	4	7	11	7	18	4	52	1	1	1	1	3	1
13	4	6	9	6	17	3	53	1	1	1	1	3	1
14	4	6	9	6	17	3	54	1	1	1	1	3	1
15	4	6	7	6	15	3	55	1	1	1	1	3	1
16	4	6	7	6	15	3	56	1	1	1	1	3	1
17	4	6	6	6	14	3	57	1	1	1	1	3	1
18	3	6	5	5	13	3	58	1	1	1	1	3	1
19	3	5	5	5	10	3	59	1	1	1	1	3	1
20	3	5	4	4	10	3	60	1	1	1	1	3	1
21	3	5	4	4	10	3	61	1	1	1	1	3	1
22	3	4	4	4	9	2	62	1	1	1	1	3	1
23	2	4	3	3	9	2	63	1	1	1	1	3	1
24	2	4	3	3	9	2	64	1	1	1	1	3	1
25	2	4	3	3	9	2	65	1	1	1	1	2	1
26	2	3	3	3	8	2	66	1	1	1	1	2	1
27	2	3	3	2	8	2	67	1	1	1	1	2	1
28	2	3	3	2	8	2	68	1	1	1	1	2	1
29	2	3	3	2	8	2	69	1	1	1	1	2	1
30	2	3	3	2	7	2	70	1	1	1		2	1
31	2	3	3	2	7	2	71	1	1	1		2	1
32	2	3	2	1	7	2	72	1		1		2	1
33	2	3	2	1	6	2	73	1		1		2	1
34	2	2	2	1	6	2	74	1		1		2	1
35	2	2	2	1	6	2	75	1		1		2	1
36	2	2	2	1	6	2	76	1		1		2	1
37	2	2	2	1	5	2	77	1		1		2	1
38	2	2	2	1	5	2	78	1		1		2	1
39	2	2	2	1	5	2	79	1		1		2	1
40	2	2	2	1	5	2	80	1		1		2	1
								∫ (98位)1		∫ (115位)1		∫ (97位)2 (98位)1 ∫ (166位)1	∫ (172位)1

- ・ある家事作業をどこにグルーピングするかという、学生の受け取り方に差がある。例えば、「ふとん」は布と綿が主材料で縫って作るから「衣生活」とする場合と、「日常のあげおろし」は家族の分担とみる、また、「住生活」が適しているともみる等で、今回は「ふとん干し」「ふとんのあげおろし」「ベッドメーカー」等を、「住生活」に分類した。

連想した通りを自由にカードに記入し、整理しているから、このような矛盾が幾つか生じるのは止むを得ないと思われる。

3. 記入数

カードの記入を6つの領域に分類した結果が図表2である。

昭和59年度から63年度までの5年間のカード記入総数は2,941枚、全体平均でみると1人当たり24.3枚である。(家庭管理学は、小学校課程の家庭科専修生が必修選択であるため、年度により受講者数が異なっている。)1人当たりの記入数は年度により大きく開きがあり、S.60の14.1枚が最小で、S.63の45.8枚が最大である。昭和62,63年度の記入数が多いが、連想の範囲が拡大したというより、記入したものが殆ど単語であるため、簡単に思いつくことを記入したように思われる。

領域別の記入数では、住生活領域の数は群を抜いて多く870枚で、最小の意義・イメージ領域は270枚に留まっている。筆者にとっては先ず思い浮ぶ家事労働は「食生活」であるが、主婦としての日々の家事労働の経験からであり、戦中世代の苦い思い出の故でもあろう。現代のグルメ志向と、社会化が進展した簡便な食生活は、若い人にとって食生活中心の生活ではないのかもしれない。確かに「住生活」は、整理、掃除の作業から住居の外周り、ゴミ処理と複雑多岐にわたっている。

4. 記入数の順位による分布

6領域への記入数を、多い順に並べたものが図表3である。

領域ごとの記入数の大小に関係するのは当然であるが、ある小文節や単語（合わせて言葉と表現する）に記入が集中すれば順位の柱は短くなる。記入数と順位の末尾をあげると、図表4のようになる。

分布が上位に集中しているのは、住生活と衣生活であるが、総記入数に対する比率からいえば衣生活が最も上位に集っている。即ち、連想した言葉の一致性が高い。それに対し、家事労働の意義・イメージは最高11枚と少なく、1枚ずつの記入が125枚（125種類の言葉）と非常に分散しており、領域の特徴を表わしているといえる。

5. 家事労働の領域別の記入

「家事労働に関して連想すること」の言葉を領域ごとにまとめた表が図表5～10である。また6領域内の分類と記入数を示したものが図表11である。

図表4 領域別の記入数と順位の末尾

領域	家族・保育 ・看護	家庭経営	食生活	衣生活	住生活	意識・イメージ
合計数(枚)	374	464	477	490	870	270
順位末尾(位)	98	71	115	69	166	172

図表5 家族・保育・看護領域 (その1)

内容	年度					計	内容	年度					計
	63	62	61	60	59			63	62	61	60	59	
A 世話	1					1	A 老人扶養					1	1
家族の世話			2	1	1	4	子どもの社会化					1	1
両親の世話		1				1	B 授乳	1					1
夫の世話	1	1				2	おんぶ	1					1
夫のネクタイを結ぶ	1	1				2	乳児の世話		1				1
家族を起こす	5	2				7	ベビーホテル					1	1
子どもを起こす	2					2	しつけ	7	3	5	3	2	20
理容, 美容		2				2	教育	6	1	3	2	1	13
家族の健康管理	7	2	6	3	1	19	教育の方針					1	1
家族の疲れをいやす	1					1	勉強をみる	2	1				3
家族の話をきく	1					1	送り迎え	4	5	4	1	7	21
家族のコミュニケーション	1					1	車で送り迎え	1					1
家族の気分をよくする	1					1	おごと		1				1
精神衛生			2			2	子どもの誕生パーティ	2					2
情緒の安定を図る					1	1	PTA	4	5	5		1	15
相談ごとになる			1			1	学校との連絡				1		1
祖先の供養			1			1	子どもの小づかい		2				2
家族会議			1			1	子どもの対話		1				1
家族旅行			2			2	子どもの世話	2	2	1	1		6
家族の生活指導			1			1	子どもの相手	1					1
老人				1		1	子どもの遊び相手	2		1			3
老人の世話	3	5	5	4	2	19	子供	2		1	1		4
おばあちゃん, 祖母	2					2	赤ちゃん				1		1
お母さん	4					4	親の責任					1	1
母	2					2	育児	22	11	22	17	21	93
母親	4					4	保育	2					2
奥さん	1					1	子育て	2					2
主婦	6					6	お守り	2					2
専業主婦	4					4	おむつ	1					1
専業主夫	1					1	C 病人の看護・世話	2	7	6	3	2	20
嫁	3					3	ケガ人の世話	1	1				2
姑	2					2	家庭内医療		1				1
子どもの手伝い					2	2	保健所へ行く		1				1
家庭	4					4	衛生に気をつける		1				1
家族	3					3	救急用品	2					2
結婚	2			1		3	老人介護	1					1
新婚	1					1	D 目覚時計	2					2
夫婦関係	1					1	朝	1					1
世帯	1					1	男の自立				1		1
単身赴任				1		1	ノイローゼ			1			1
1人ぐらし				1		1	2人乗自転車				1		1
独身				1		1	生活	1					1
家族計画			1			1	家庭的	1					1

図表5 家庭・保育・看護領域（その2）

内容	年度						内容	年度					
	63	62	61	60	59	計		63	62	61	60	59	計
D 家族への気くばり	1					1	D 家族の融和			1			1
思いやり	1					1	家族の調和					1	1
愛情	1					1	日常会話			1			1
円満な家庭	2					2	下宿生活	1					1
家族の団らん	1		1			2	人間関係					1	1
団らんの中心			1			1	世話の負担が大					1	1

〔総計 374〕

1) 家族・保育・看護領域（図表 5, 11）

高齢化社会への急速な進行はニュースばかりでなく、社会の致る所で問題となり、研究、論議されている。この領域は人間を直接に取り上げているが、高齢者についての記入は A. 家族・看護の分類で5つ程度で少ないと思われる。それよりも子どもの世話や、母、主婦などの言葉が多く上っている。大学生の属する家族構成では、父母は40代から50代前半の働き盛りであろうし、3世代家族が少なく、病弱な高齢者が身近にいないのかもしれない。間もなく出生家族を離れて結婚し、創設家族をつくる年齢層であるから、結婚、家庭への関心は高く、女子には同性の先輩として母親の後姿に注目するのも当然であろう。数は少ないが D. イメージで「円満な家庭」や「団らんの中心」に近い将来の自分の生活を想像しているようである。

2) 家庭経営領域（図表 6, 11）

家庭科教育で家庭経営が領域として位置づけられているのは、既述のように高等学校においてであるが、これは発達段階を考慮しているためでもある。即ち、小・中・高校を通して広い意味での家庭経営（家族、家庭経済、家庭管理、家庭と社会）が一貫していなくてはならない。この研究では「家族」を軸とした領域を設けているから、家庭経営領域は「家族」を除いた内容になる。

家庭経営領域内の分類は図表 12 の通りであるが、最も多いのは A. 家庭経済 162 で、B. 生活時間は 3 と非常に少ない。家庭経済の設計に関わる内容もあるが、「家計簿」50 がこの分類では最多となっている。家計簿の記帳は高校の家庭一般で学習するが、家庭で家計簿を継続して記帳するのは根気のいる仕事で、学習の効果が実践に示されているかについて些か危惧の念を持っている。

D. 消費生活には、消費者の活動や消費者の権利・保護は殆ど表われていない。現代における消費生活の重要性は、家族、家庭ばかりでなく、個人としても言うまでもないことであり、学校教育、家庭科教育において、また社会教育においても消費者教育の一層の進展が切望される。

3) 食生活領域（図表 7, 11）

食生活領域の分類では、B. 作業に関するものが 256 と最多で、D. 食品・用具・機器・場所などの細かい記述が 163 とそれに続く。B. 作業では、「炊事」53、「食事の仕度」32、「料理」28、さらに「後片付け」47、「食器洗い」34 と、普遍的な言葉が多くみられる。「弁当づくり」21 に対し、夜食の用意が表れないのは受験期は過ぎたという感じがする。D. の分類には用具が数多く出ている。食品としては種類が少ないものの、目玉焼、卵焼、オムレツの卵料理とみそ汁の出現は小学校家庭科の教材として興味深い。

C. 変化は 11 と数が少なく分散している所をみると、食生活の変化はマスコミで喧伝される程ではなく、意外に保守的なものかもしれない。

図表6 家庭経営領域 (その1)

内容	年度						内容	年度					
	63	62	61	60	59	計		63	62	61	60	59	計
A 生活設計				1		1	A 収入を得る		1				1
老後の設計	1			2		3	内職		2				2
生活費のプランニング			1			1	勤め	1					1
家計	5		2	1		8	老後				1		1
家計の管理		5				5	病気事故対策				1		1
家計のやりくり	3		6	1		10	親への仕送り				1		1
予算			1		3	4	子どもへの仕送り				1		1
お金の管理			1			1	B カレンダーめくり					1	1
金銭管理	2			6		8	暮し				1		1
経済管理	2			1	4	7	生活の営み				1		1
貴重品の管理	1			1		2	C 新聞とり	1				1	2
財政の管理		1	1			2	郵便物受取り		2			2	4
赤字	3					3	フィルムを出しに行く		1				1
火の車	1					1	留守番	1	1		1		3
財テク	2					2	家事分担	2					2
貯金	3	1	1	1	1	7	手伝い	4					4
預金			2			2	ホームペルパー	1					1
引出し	1					1	家政婦	1					1
銀行へいく	2	1				3	いろいろな仕事				1		1
お金を払う	1		1		4	6	グリーンスタンプをはる		1				1
公共料金支払い	1	2	1	1		5	D 消費	2					2
税金を納める		1				1	消費活動			1			1
公共料金	1					1	消費者	1					1
所得税	1					1	消費生活	1					1
税金	1					1	意思決定				1		1
税金対策				1		1	災害の準備	1					1
保険・年金				1		1	買物	22	12	28	16	19	97
クレジット・ローン返済			1	1		2	商品選択	1					1
収入	1					1	おつかい	1					1
支出	1					1	食事の買いもの	1					1
家計簿	23	8	6	3	10	50	常備品の保持		1	1			2
レシート	1				1	2	買物かご	1					1
計算機	1					1	薬品の買いおき		1				1
エンゲル係数	1					1	スーパーマーケット	1					1
ボーナス日	1					1	コンビニエンスストア	1					1
食費	1					1	移動スーパー	1					1
光熱費	1					1	八百屋	1					1
電気代	1					1	スーパーの広告	1					1
ガス代	1					1	スーパーの安売り	2					2
水道代	1					1	バーゲン	1					1
電話代	1					1	買いだめ	1					1
雑費	1					1							

図表6 家庭経営領域（その2）

内容	年度					計	内容	年度					計
	63	62	61	60	59			63	62	61	60	59	
E 近所づきあい	7	7	5	3	7	29	E 年賀状		1				1
隣のつきあい		1				1	訪問販売の応待	1		1			2
井戸端会議			1			1	共同	1					1
知人との交際				1		1	協力	6					6
交際		1	3			4	家事の社会化	1				1	2
地域活動に参加		1	3		4	8	集金人の応待			1			1
町内会、自治会	6					6	F 天気予報			1		1	2
町会に出席		3	1	1		5	ニュース入手		1			1	2
回覧板	6	2				8	経済情報入手		2		1		3
接客	7		7	2	6	22	佛様のごはん・花	1	1				2
接待		6				6	神棚の水		1				1
訪問	2					2	お歳暮、お中元	4	5				9
取次	1					1	正月の準備	2					2
電話応待	2		1			3	お盆の準備	1					1
団地の当番	1					1	冠婚葬祭		1	4		1	6
法事へ出る		1				1	親戚づきあい	2	1	3			6
手紙をかく	2					2	F 余暇活動、レクリエーション			4			4
あいさつ状		1				1	レジャー計画	1					1
礼状		1				1							
暑中見舞		1				1							

〔総計 460〕

4) 衣生活領域（図表8, 11）

衣服が家庭内で女性によって仕立てられていた時代には、縫う技能は女性が身につけなければならないことであった。明治期の学校教育においても女兒には縫う技能を指導することが社会的な強い要望となり、和服の仕立てを業としていた人達が裁縫教師となった。また忍耐のいる縫う仕事は女子の精神修養、躰とも考えられていた。この風潮は子どもが洋服の既製服を着て生活した昭和に入っても続き、運針、和裁、ミシン練習、洋裁が指導された。戦後の復興につれて既製服の普及は一層進み、持ち数の増加、高級化、ファッション化とクリーニング店の利用による手入れの外部化も拡大している。

衣生活領域では、A. 手入れが337と圧倒的に多く、B. 製作96を大きく引離しているのは、現代の衣生活の実態を反映している。しかし、C. 着用8, D. 計画11がさらに少ないことは、これらの分類の内容は個人の問題であって家事労働の連想には繋がらないのかもしれない。A. 手入れの内、洗たく112と多いが、アイロンかけ70がこれに次ぐのも現在の衣生活であろう。D. 計画に既製服の言葉が1つしか上らないことは、初めて既製服を購入すると意識されない程一般化しているのであろう。

5) 住生活領域（図表9, 11）

食生活・衣生活領域に対し、住生活領域は記入数が遙かに上回っている。我国の住生活は食生活・衣生活よりずっと立ち遅れており、1世帯1住宅を越えたと言われているが、質的には先進諸国に及ばない。それでも最近では、住宅の面積の拡大、施設、設備の質の向上、イ

図表7 食生活領域 (その1)

内容	年度						計	内容	年度						計
	63	62	61	60	59	63			62	61	60	59			
A 食生活	1					1	C インスタント食品	1					1		
食事	1					1	レトルト食品	1					1		
栄養	1					1	宅配食品	1					1		
学養管理	4	1	5		1	11	スーパーマーケット				1		1		
栄養のバランス	1					1	新聞折込広告				1		1		
献立作成	9		5		2	16	D 台所	10		1		1	12		
カロリー計算	2					2	システムキッチン	1					1		
献立	1	3				4	流し台	1					1		
朝食	1					1	冷蔵庫	4					4		
昼食	1					1	湯沸器	1		1			2		
夕食	2					2	ガスレンジ	1					1		
家族の生活					1	1	コンロ	1					1		
夕食のおかず	1					1	オープン	5					5		
B 調理	3	7			1	11	電子レンジ	1					1		
料理	11		2	9	6	28	炊飯器	5					5		
炊事	10	7	18	9	9	53	トースター	1					1		
食事の仕度	9		12	3	8	32	ちゃぶ台	1					1		
配膳	2	1			3	6	テーブル	1					1		
弁当作り	11	4	2	3	1	21	いす	1					1		
おやつ作り	2		1			3	テーブルクロス	1					1		
正月の準備					1	1	包丁	7					7		
火のもと点検	1					1	まな板	3					3		
ふきんの漂白	1	1				2	鍋	9					9		
台所の手入れ	2					2	フライパン	11					11		
包丁をとぐ	3					3	かま	1					1		
米とぎ		1				1	やかん	2					2		
漬物つけ	1			1		2	ボール	1					1		
後片付け	14	1	20	3	9	47	洗い桶	1					1		
食器洗い	12	9	1	9	3	34	お玉	7					7		
鍋みがき	2					2	杓子	3					3		
残飯整理	1					1	菜箸	1					1		
冷蔵庫の霜取	1					1	ふきん	9					9		
冷蔵庫内整理		1	1			2	台ふきん	3					3		
換気	1					1	計量カップ	1					1		
米を頼む	1					1	ママレモン	3					3		
食器戸棚整理			1			1	石けん	1					1		
C 外食					1	1	ビニール手袋	2					2		
半加工品, 調理品					1	1	防虫剤	1					1		
3分クック	1					1	エプロン	13					13		
店屋物注文	1					1	割烹着	3					3		
夕食材料宅配	1					1	漬物	3					3		
冷凍食品	1					1	三角巾	2					2		
							手ぬぐい	2					2		

図表7 食生活領域 (その2)

内容	年度						内容	年度					
	63	62	61	60	59	計		63	62	61	60	59	計
D たわし	2					2	D 梅干し	1					1
スポンジ	2					2	梅酒	1					1
輪ゴム	1					1	調味料	2					2
食器	1					1	しょうゆ	1					1
コップ	1					1	米	1					1
皿	3					3	じゃがいも	2					2
スプーン	1					1	コーヒー	1					1
フォーク	1					1	お茶		1				1
箸	1					1	お菓子	2					2
みそ汁	4					4	パースデーケーキ		1				1
目玉焼	1					1	おやつ		1				1
卵焼	1					1	おせち料理		1				1
オムレツ	1					1	E ごはんの匂い	1					1
煮もの	1					1	水が冷たい	2					2
漬物	3					3	エプロン姿			1			1

(総計 447)

インテリアへの関心の増加など、住要求の向上が表われてきている。しかし住宅の新規購入とか建築、増築、改築といった家庭経済に巨額の負担を伴う生活の設計は、家事労働の連想とは程遠いようで、全く出てこない。住生活の家事労働は、A. 掃除 226, B. 庭, 外掃除 136, F. 作業 (A, B 以外) 269 の分類に出てくる整理と掃除を主とする手入れや細かい作業となっている。建築物そのものではなく、建築物の内と外周りの手入れ、及びそれに使用する用具や消耗品が出ている。自家用自動車の普及により、「洗車」「車の手入れ」という家事労働が生じている。「ゴミ処理」は現代の社会生活に重要な問題である。「ペットの世話」は家族の一員という発想もあるが、ここでは家や庭での飼育として住生活にいった。

6) 家事労働の意義・イメージ領域 (図表 10, 11)

図表 10 にみられる通り、この領域で最も集中した「無償」は 11 と記入数が少なく、3/4 近くが 1 人 1 つの記入で細かく分散している。

全体をみて、家事労働は無償で大変な仕事であり、時間的にきりがなく、休日もない、というようなマイナスイメージが強く、その家事労働をしているのは、お母さん、女性、で、女の仕事、主婦の主婦と、「性別役割分業」の意識でみている。「子どもの手伝い」「お父さんも手伝って」では家事労働の主な担い手は、父親でなく、子どもでない人、つまり母親か女性となり、実態が殆どそうであるが、記入した女子学生が「女の仕事」と受けとめていると思われる。

家事労働の減少、合理化、機械化、社会化の方向にあり、家族の分担、家族の協力性も上っているように、家事労働の分担や方法について現実を踏まえて変化させていく意欲を望みたい。経済的にみて賃金、報酬が伴わないが、半面、家事サービスを依頼して代金を支払って解決する手段もある。逃れられない、繰返しの家事労働であるのに、主婦の余暇時間が連想されており、お菓子を作る、編物、手芸のように余暇化している部分もある。

図表8 衣生活領域

内容	年度						内容	年度					
	63	62	61	60	59	計		63	62	61	60	59	計
A 被服の手入れ	1	1				2	リフォーム	1					1
洗たく	28	12	32	21	19	112	ふとんかたづけ		1				1
クリーニング	13	6	1	1	2	23	雑巾づくり		1				1
手洗い	3				1	4	C 身仕度	2		1		1	4
水洗い	1					1	ネクタイ選び	1					1
糊づけ	3					3	着がえの用意		2				2
干す	6	2	2		3	13	選択					1	1
とりこむ	2		3		1	6	D 衣生活の維持				1		1
たたむ	6	2	3		2	13	被服整理				1		1
しまう, 収納	2	3				5	被服管理				1	5	6
漂白, しみぬき	2	2	1			5	既製服						1
アイロン (かけ)	23	12	17	10	8	70	衣服の購入						1
衣類の整理	7	3	6		4	20	E ミシン (かけ)	4	1				1
衣がえ	9	5	5	2	4	25	ぬい糸	1					1
むし干し	2					2	くけ台	1					1
靴みがき	14	4	4	3	5	30	割烹着, エプロン	4					4
ズック靴洗い			3			3	スリッパ, サンドル	2					2
B 被服をつくる	5	1				6	洗たくばさみ	3					3
裁縫	13	5	12	9	12	51	洗たく機	9				2	11
お針	1					1	乾燥機	1					1
子ども服をつくる			1			1	洗たくネット	1					1
縫いもの	1	6				7	洗剤	1					1
編みもの	5	1				6	柔軟剤	1					1
手芸			1			1	ブラシ	1					1
ボタンつけ			1			1	物干し竿	3			1		4
繕いもの	8		3	4	4	19	F 晴天	1					1

(総計 490)

IV. 今後の課題

1. カードのグルーピングからの分析

今回はカードの分析を行ったが、学生のグループによって整理とまとめ方に差があるから、そちらに焦点を置いて家事労働についての考え方を分析してみたい。

2. カードだけ使用する分析

カード記入とグルーピングによる整理の2段階を行っているため、学生の整理の仕方により矛盾が出ることもある。カード記入だけに留めるか、グルーピングを考慮しないで分析するか、というように単純化して研究することも考えられる。

3. カードの記入の仕方及び記入数の差

カードの言葉が単語と小文節では違いがあるため、この点の整理も必要であろう。

記入数の多少は時間的, 時期的な変化というより学生の雰囲気による差のように思われる。記入する直前に情報があれば、それにも影響されるであろう。これまで記入数はできるだけ多く、としてきたが、時間の枠もあるので、平均よりやや多い数量に限定することも考えられる。

図表9 住生活領域（その1）

内容	年度						内容	年度					
	63	62	61	60	59	計		63	62	61	60	59	計
A 掃除	24	11	32	13	21	101	B 細仕事	1					1
年末大掃除	2				1	3	薬剤かけ		1				1
掃き掃除	1	1				2	園芸飼育	1					1
ハタキかけ	3	1			1	5	道路掃除	1		1		2	4
雑巾がけ	6	2		1	4	13	町内掃除					1	1
ワックスがけ	1					1	C 雑巾	8			1		9
モップ掃除	2					2	ほうき	8					8
床みがき	2					2	はたき	7					7
窓ふき	16	3	2	2	4	27	ちりとり	3					3
家具の手入れ	2				1	3	モップ	2					2
掃除機かけ	13	2				15	石けん				1		1
台所掃除	2				1	3	洗剤	5					5
トイレ掃除	16	1	3	2		22	ダスキン	3					3
玄関掃除	5			2		7	キムコ	1					1
洗面所掃除	2					2	ゴミ袋	2					2
浴室掃除	1					1	殺虫剤	1					1
風呂掃除	14	5	7	2	2	30	ポリバケツ				1		1
浴室カビトリ	2	1				3	ゴミバケツ	2					2
階段掃除	1					1	電球	1					1
換気扇掃除	4					4	鎌	2					2
レンジみがき	2					2	植木鉢	1					1
ガスコンロ掃除	2					2	ゴム手袋	1					1
網戸洗い	3					3	ホース	1					1
サッシ掃除	2	1				3	日用品	1					1
排水管掃除		1				1	スリッパ	1					1
タイル掃除	1					1	サンダル	1					1
冷蔵庫掃除	6					6	クレンザー	1					1
調理用具手入れ	1					1	ママレモン	1					1
B 家の周りの掃除	1					1	ガラススック	1					1
ドブ掃除	4		1			5	カビキラー	1					1
洗車	4	1	1	1	1	8	D 台所	3			3		6
車の手入れ		1				1	ダイニングキッチン	1			1		2
庭掃除	11	3	2	2	5	23	水洗トイレ				1		1
水まき、水やり	11	5	1		1	18	換気扇		1				1
池の水の入れかえ					1	1	ガスレンジ		1				1
庭の手入れ	4	7	9	5	8	33	流し台	1					1
庭の仕事					1	1	冷蔵庫	1					1
草取り	10	3	4		4	21	炊飯器	1					1
草刈	2					2	テレビ	2					2
草木の手入れ	2		1		2	5	電話	1					1
植木の世話			1			1	電気	3					3
草花栽培、花壇	1	1				2	たたみ	2					2
家庭菜園、野菜づくり	1	1	3	1		6	インテリア	1					1

図表9 住生活領域 (その2)

内容	年度						内容	年度						
	63	62	61	60	59	計		63	62	61	60	59	計	
D ガス	2					2	F こたつ出し	1		4		12	17	
水道	2					2	虫退治	6		1			7	
下水道	1					1	ゴキブリ退治	3					3	
ソファ	1					1	灯油をいれる	1		1			2	
掃除機				1	3	4	ふとん干し	3	11	19	4	7	44	
E 家の管理	5				1	6	ふとんのあげ, おろし	2	1	7	1	4	15	
火の元管理	1					1	ふとん敷き	2					2	
戸締り	11	4	1	1		17	ベッドメーカーキング	1		1			2	
消灯		1				1	シーツがえ					2	2	
雨戸しめ	1	2	1	1	3	8	寝具手入れ	1	1				2	
ガス栓確認		1				1	雑巾づくり	2					2	
防災・防犯			1			1	部屋の装飾	1	2	3	1	1	8	
雑用	1					1	日曜大工	2	1	1			4	
下水道管理					1	1	大工仕事	1	1	1			4	
暖冷房機の管理			1			1	簡単な修理	2	3	4		1	10	
温度調節			1			1	家電製品修理	1	2				3	
換気					1	1	たたみ干し					1	1	
衛生管理			5			5	かさ干し	2	2				4	
住居の維持			2			2	電話番	1	1				2	
家屋の手入れ				1		1	たき火			1			1	
耐久消費財管理					2	2	廃品回収			1			1	
環境整備	1					1	片づけ			1	2		3	
F 風呂わかし	7	5	1	3	6	22	G 地域コミュニケーション						1	1
風呂準備		3	7			10	清潔						9	9
整理, 整とん	6	3				9	快適に住み心地よく					5	5	
文書整理	1					1	プラゴミ	1					1	
戸棚整理	1					1	生まゴミ	3					3	
季節の家具の出し入れ		1				1	ゴミの日	1					1	
生活用品整備		1				1	ゴミ当番	1					1	
模様がえ	6	3	1			10	機械化	2					2	
障子はり	11	1	1		1	14	電化製品	2					2	
カーテンかえ	1					1	火	2					2	
電球とりかえ	1					1	水	3					3	
花をいける	2					2	綿ぼこり	1					1	
花の水かえ	1					1	ペットの世話	5	9	3		2	19	
ポストから取る	2			1		3	金魚にエサ		1				1	
ゴミ捨て	19	12	6	3		40	犬の散歩	1					1	
ゴミ燃やし	2					2	犬(猫)の世話	1	1				2	
新聞雑誌整理	5	1			3	9	小鳥の世話		1				1	
チリ紙交換	3					3	動物の世話					2	2	

(総計 870)

図表 10 家事労働の意識・イメージ領域（その1）

順位	内容	年度					計	順位	内容	年度					計
		63	62	61	60	59				63	62	61	60	59	
1	無償	8				3	11	22	妻			1	1		2
2	家族の分担				1	7	8	〃	余暇の増				1	1	2
3	大変	6					6	〃	早起き				1	1	2
	〃 きりが無い、終わりが無い	3			3		6	〃	エプロン				2		2
	〃 家事労働の減少	6					6	48	家族のくつろぎ					1	1
6	疲れる	3			2		5	〃	幸福の追求					1	1
	〃 お母さん				5		5	〃	家族が行う					1	1
	〃 目覚時計	5					5	〃	生き甲斐でなくやり甲斐					1	1
9	主婦				1	3	4	〃	夫婦で分担の方向					1	1
	〃 テレビを見る	4					4	〃	子どもの手伝い					1	1
	〃 共働き	1		2	1		4	〃	分担の心構えが欲しい					1	1
	〃 女の仕事	2			2		4	〃	やってくれるのは有難い					1	1
13	忙しい	3					3	〃	お父さんも手伝って					1	1
	〃 拘束性	2			1		3	〃	男性も手伝うようになった					1	1
	〃 めんどくさい	1			2		3	〃	協力すると早い					1	1
	〃 手ぬき	3					3	〃	積極的に参加					1	1
	〃 省力	1			2		3	〃	自分のことは自分で					1	1
	〃 みんなの理解	3					3	〃	親にたまにはやってもらいたい					1	1
	〃 家族の協力性	2				1	3	〃	男にもできる					1	1
	〃 女性	2			1		3	〃	男の方が好んです					1	1
	〃 性別分業	2			1		3	〃	家事労働からの解放					1	1
22	主婦の仕事				2		2	〃	暗い、じめじめしている					1	1
	〃 パートタイマー	2					2	〃	台所症候群					1	1
	〃 家事労働の目的					2	2	〃	家庭の周りによる違い					1	1
	〃 家庭生活を営むために				1	1	2	〃	休日がない					1	1
	〃 時間がかかる	1			1		2	〃	日曜もなし	1					1
	〃 眠い	2					2	〃	休日がつぶれる	1					1
	〃 自由な時間構造	1			1		2	〃	逃れられない				1		1
	〃 家族が多いとふえる				1	1	2	〃	繰返し	1					1
	〃 重労働	1					2	〃	毎日やる	1					1
	〃 賃金、報酬がない				2		2	〃	習慣				1		1
	〃 奉仕	1			1		2	〃	戦争	1					1
	〃 腕力	2					1	〃	気ばらし	1					1
	〃 体力	2					2	〃	気分転換	1					1
	〃 小規模	1				1	2	〃	不満	1					1
	〃 合理化	1				1	2	〃	ほめられない	1					1
	〃 機械化				2		2	〃	気になる				1		1
	〃 簡素化	1				1	2	〃	サービス	1					1
	〃 単調	1			1		2	〃	忍耐	1					1
	〃 社会化				2		2	〃	肩こり	1					1
	〃 必要なこと	2					2	〃	手あれ	1					1
	〃 不可欠	2					2	〃	内向的	1					1
	〃 愛情	1			1		2	〃	1人多役	1					1

図表10 家事労働の意識, イメージ (その2)

順位	内容	年度					計	順位	内容	年度					計	
		63	62	61	60	59				63	62	61	60	59		
48	やりたくない	1					1	//	家事手伝い						1	1
	// できればやりたくない				1		1	//	家族のため	1						1
	// やめたい	1					1	//	幸福	1						1
	// 憂うつ	1					1	//	感謝	1						1
	// 拘束性弱い					1	1	//	思いやり	1						1
	// 男性の参加	1					1	//	家族への心配り						1	1
	// 夫の参加	1					1	//	老人への心配り						1	1
	// 下宿人	1					1	//	信頼	1						1
	// 時間に追われる				1		1	//	家庭内	1						1
	// 自分の時間ができる				1		1	//	生活手段	1						1
	// 女は家庭に一差別	1					1	//	生活と切り離せない	1						1
	// 適性無視					1	1	//	生活	1						1
	// 永久就職	1					1	//	みんなで分担	1						1
	// 専門業	1					1	//	個別生産	1						1
	// 母親の立場はイヤ	1					1	//	伝承	1						1
	// 仕事との両立	1					1	//	若奥さん						1	1
	// 女性が外に仕事をもちにくい					1	1	//	嫁						1	1
	// 職業労働				1		1	//	日本の母						1	1
	// 労働時間	1					1	//	良妻賢母				1			1
	// 労働時間の減少	1					1	//	母の日	1						1
	// キャリアウーマン				1		1	//	主婦の余暇時間	1						1
	// 職業婦人の苦勞	1					1	//	余暇	1						1
	// 時間の短縮化	1					1	//	余暇利用の活動	1						1
	// お金で買える					1	1	//	旅行						1	1
	// お金に換算しにくい					1	1	//	昼寝	1						1
	// 特定の人に責任					1	1	//	エプロン姿						1	1
	// 家事サービス					1	1	//	姉さんかぶり	1						1
	// 家政婦					1	1	//	昔と今の違い	1						1
	// 目まぐるしい					1	1	//	ワンタッチ	1						1
	// 代替化					1	1	//	教養	1						1
	// インスタント化					1	1	//	専門書	1						1
	// 工夫					1	1	//	マイホーム						1	1
	// 時間のやりくり	1					1	//	早朝						1	1
	// 便利さ拡大	1					1	//	神聖						1	1
	// 能率	1					1	//	ごはん						1	1
	// 効率	1					1	//	みそ汁						1	1
	// 電化	1					1	//	ぬかみそ						1	1
	// 職業化	1					1	//	土間						1	1
	// 努力	1					1	//	スリッパ						1	1
	// 知恵	1					1	//	万歩計						1	1
	// 度胸	1					1	//	夕方	1						1
	// 内職	1					1	//	楽しみは多い						1	1

(総計 270)

図表 11 領域の分類について

領域	家族・保育・看護	家庭経営	食生活	衣生活	住生活	家事労働の意義 ・イメージ
分	A. 家庭 123 B. 保育 201 C. 看護 28 D. イメージ 22	A. 家庭経済 収入と支出など 162 B. 生活時間 3 C. 労力の管理 20 D. 消費生活 購入, 消費など 120 E. 地域, 社会 つきあいなど 117 F. 文化, 伝承, イメージ, 行事, 宗教など 38	A. 設計, 献立など 43 B. 作業, 調理など 256 C. 変化, 社会化など 11 D. 食品, 用具, 機器 場所など 163 E. イメージ 4	A. 手入れ, 洗たくなど 337 B. 製作, 裁縫, 繕うなど 96 C. 着用, 身じたくなど 8 D. 計画, 購入など 11 E. 用具, 機器 37 F. イメージ 1	A. 掃除 226 B. 庭, 外掃除 136 C. 用具, 消耗品 58 D. 設備, 備品 33 E. 管理 51 F. 作業(A・B以外) 269 G. イメージ, その他 57	この領域は細かく広がって いるため, 他領域のよう な分類はしていない。 270
計	374	460	477	490	870	270

4. 研究の方向として

学生の記入した「家事労働の連想」カードから、社会の動向も含めて家事労働の変化がどれだけ把握できるであろうか。家事労働に関する他の研究や分析と組み合わせる考察が重要である。

さらに、今回は学生（教育学部の家庭科専攻及び家庭科専修）の記入したカードの分析であるが、記入者の対象を変えると異った結果が表れると思う。小学校高学年，中・高校生，社会人，主婦，また女子だけでなく男子も，年齢の巾を広げて高齢者を対象とすることができれば一層分析結果に信を置くことも可能になるとと思われる。

V. ま と め

1. 家事労働の変化の動向を把握したいという大きなねらいに対して、考察では極めて漠然とした結果になっているが、“変化の兆し”より“変化しつつある”と思われる。しかし本研究の比較対象となる先行研究を目下見つけることができなかつたため、前述のように漠然とした常識による判断となっている。この点からも調査対象の範囲を拡げて、時系列に分析、まとめることが望ましい。
2. 6領域の立て方やその中の分類の検討も必要である。領域を全く別の切り口で、例えば、計画、作業、評価の過程で考えると、人間と物資、サービス、作業のような枠組などを立てられると、家事労働の別な面が見えてくるのかもしれない。
3. 家事労働は古くて新しい問題である。真の豊かな生活を維持しながら、固定化されない代替の余裕のある労働としていきたい。

資料、参考文献

- 1) 沼尻幸吉「労働のエネルギー代謝に関する研究」、『労働科学』27（1951），他 大島正光「自覚的疲労感の見方」『労働の科学』第5巻（1950），他 大森和子「家庭管理学」朝倉書店（1973）
- 2) 明治期の裁縫教授書など，渡辺辰五郎「普通裁縫教授書」，朴沢三代治「小学中等科裁縫教授書」，など
- 3) 石沢吉磨，近藤耕蔵ら
- 4) 宮崎礼子「水田単作地における1農婦の農業労働及び生活時間の構造」（その1）『労働科学』36，5，（1960），他
- 5) 稲葉ナミ他「共稼ぎ夫婦の生活の時間的構造について」『家政学雑誌』Vol. 9，1，他 桑田・伊藤・大竹「共働き家庭と非共働き家庭の夫婦の生活時間構造の推移，第1報」『家政学雑誌』Vol. 28，6，他
- 6) 伊藤セツ，天野寛子他「生活時間」，光生館，1983，他
- 7) 酒井ノブ子「家庭管理能力の研究」，槇書店（1969）
- 8) 日本家庭科教育学会「時代の変化に応える一カリキュラムの研究一」，（1987）